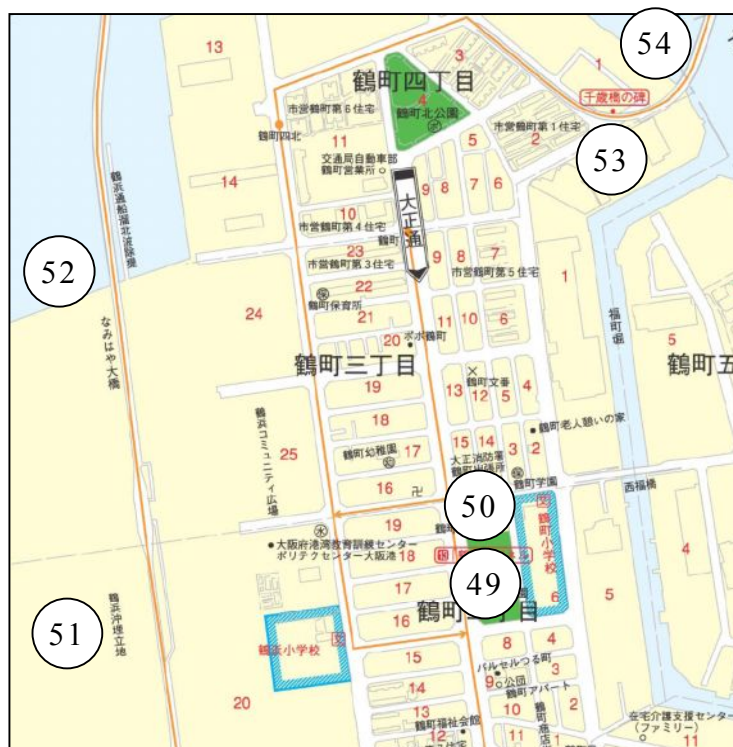


神明神社 所在地：鶴町 2-7-29

御祭神は天照皇大神・八幡大神・春日大神であり、初め後陽成天皇の御代に京都の西院に祀られたが、元和 2 年(1616)初代大坂城代松平忠明により大坂城・町中の守護神として大坂に移された。以後内平野町に在り、朝日の神明※¹・夕日の神明※²と共に大坂三神明のひとつに数えられ日中の神明又は照日の神明と称せられた。

忠明が立てた大坂夏の陣の軍功は、西院に屯した折の祈願の靈験によるものと大坂に移され、爾後大坂の祈禱所と呼ばれ、特に勝運に靈験あらたかな神様として、北浜堂島の相場師や船場井池の商人の崇敬をうけた。また毎月 16 日の夜は参詣客が群れをなし、屋台商人が列をなし大変賑わい、これが大坂の夜店の発祥といわれている。大正 13 年松屋町筋拡張工事のため社地狭小となる折、特に鶴町住民の熱烈な誘致により、鶴町・船町の氏神として当地に遷座している。



※1 朝日の神明

中央区(旧東区)神崎町にあった朝日神明宮。

現在は、此花区春日出中の「朝日神社」に合祀。

※2 夕日の神明

北区天満にあった夕日神明宮。

現在は、北区曾根崎の「露天神社」に合祀。